

大田区自立支援協議会 就労支援部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 就労支援部会 (第 10 回)			
(2) 開催日時	平成 29 年 2 月 20 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00			
(3) 開催場所	HK ビル HK-203 会議室			
(4) 出席した委員、事務局	部会長：鶴田雅英			
	志村陽子	中野真弓	別所孝治	都丸利奈子
	小平真理	小林清一	國分由記枝	岩本朋恵
	田中由紀	根本真理子	森村明香	大内伸一
	酒井弘美	富田文子		
	区職員 富永眞也			
	関係者 山田達也 広瀬健次郎			
	事務局 木伏正有 徳留敦子 村田亮 滝本裕弥			
	欠席者 関香穂利			
(5) 内容・要旨	<p>●内容</p> <p>1 各委員・各ネットワークからの情報提供</p> <p>○全体討議会 (2/6) の報告</p> <p>就労支援部会からは 7 名の委員が出席。議題は「おおた障がい施策推進プランの進捗状況報告を受けて協議会として提出した意見について」及び「次年度以降の自立支援協議会の在り方について」(内容は、全体討議会議事録の通り)。</p> <p>就労支援部会としては、今回の提案の時期やプロセスについて疑問視していることや、全体討議会が廃止されるのであれば、専門部会を超えた横の連携を行うための他の方法を検討すること、自立支援協議会の年度をまたぐ引き継ぎ方法の検討について、3/2 の本会にて部会長を通じて意見を伝えることになった。</p> <p>○おおた T S ネット</p> <p>3/16 に発足 1 周年イベントを実施予定。現在申し込み受け付け中。</p> <p>○全国若者・ひきこもり協同実践交流会について</p> <p>3/4、3/5 に駒沢大学にて開催。講演やシンポジウムを行う予定。</p> <p>○DET フォーラム障害平等研修 (2/7) の報告</p> <p>グループワークを通じて、障がいとは何かを考える発見型の研修。障がい当事者がワークのファシリテーターとなり進める。今回は企業向けに当研修の周知を目的に実施した。</p> <p>○防災部会での防災訓練 (2/15) の報告</p> <p>第 10 回の防災部会において、障がい者総合サポートセンターの福祉避難所開設訓練と避難訓練を実施した。防災部会以外の委員や他の施設の利用者・職員も参加した。避難所運営スタッフの対応等含め課題も把握することができた。</p> <p>○こども笑顔ミーティング (2/5) の報告</p> <p>こども食堂など、大田区における子ども支援をしている方からの活動報告があった。定期的で開催しており、以前には障がいに関連する話題も取り上げられることもあった。</p> <p>○子どもの高次脳機能障がいと発達障がいの理解と支援講演会 (2/8) の報告</p> <p>早稲田大学の坂爪先生を講師に招き、講演会が開催された。脳の高次脳の働</p>			

きに関する説明と、支援者は、障がい当事者と環境との相互作用において生じる問題を理解した上で支援を行う必要があるとの説明があった。

○働く精神障害者からのメッセージ発信事業（2/10）の報告について
厚生労働省受託事業であり、講演会とパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションには大田区の職場体験実習を経て就職した当事者がパネラーとして参加し、自身の経験や現在の就労の様子等を話していた。

○日本てんかん協会神奈川県支部の活動について
現在、てんかんを抱えながら働くことをテーマに 100 事例のインタビューを集めインタビューガイドを作成する事業を行っている。

○東京都障害者就労支援協議会（2/8）の報告
議題として用語の定義を整理する必要性について挙がっていた。平成 30 年度から開始される「就労定着支援事業」を見据え、「定着支援」とは何を行う支援か、ということや就労における「アセスメント」とは何をもってアセスメントを行ったことになるのかなど、定義を明確にしていくことが必要との意見があった。

○障害者就業・生活支援センター「アイ・キャリア」での研修について
高次脳機能障がい者のアセスメントについて、酒井委員を講師に招き研修会を行う予定。講義の後に事例検討も予定している。

○高次脳機能障がい支援者ネットワークについて
定例会を行っているが、参加している支援機関からは病院にて当事者の支援を行っているセラピストと繋がる機会が少ないという課題が挙がっている。今後、交流会等を企画していく予定。

2 事務局からの情報提供

①2月就労促進担当者会議からの報告
2月に行った講座型たまりばは、消費者生活センターに依頼し「消費者被害対策」の講座を行った。内容は消費者被害に関するビデオ上映の後、学生によるコントがあった。他にも漫才や落語などのプログラムもあり、消費者生活センターが窓口になっている。

3月の講座型たまりばは大森警察に講師を依頼し「防犯講座」を行う予定。
学習会では「就労者の生活支援の現場から」をテーマに大田通勤寮からお話しをいただいた。

②1月就労移行支援事業所連絡会からの報告
今年度のB型アセスメント実施についての振り返りと次年度に向けての検討課題を確認した。

また、移行支援事業所連絡会のネットワーク事業として、障害者雇用に積極的な企業を、他の企業に見学してもらうという企画を実施した。

③職場体験実習実行委員会からの報告
1/19に職場体験実習報告会を開催した。合計105名の方が参加し、アンケートでは「各就労支援事業所の枠を超えた交流ができた」という意見や「実習体験者の報告を聞き勇気がもられた」といった感想があがった。

3/2には就労者と実習体験者との交流を図るサロン・ド・ワークという企画を実施予定。

3 公開セミナーの反省

当日の出席者は、企業 25 名・区内関係者 33 名・区外関係者 18 名・部会委員 17 名・講師 2 名の合計 95 名であった。

アンケートからは、どちらの講師の内容も参考になり、多様な働き方を考えるきっかけになったといった意見が多かった。

4 第 3 回本会報告内容の確認

本会での報告内容と資料の確認を行った。

5 定着支援量と質の調査報告について

調査の集計結果報告書の記載内容の確認を行う。加えて、調査を行ったことでみえてきた就労定着支援に関する課題について、次年度以降、就労支援部会として取り組むことと、就労支援センターとして取り組むことの見出しと整理を行った。

6 今年度のまとめ

各委員より、今年度の振返りを行う。今年度の取り組みとして、各委員が参加の各ネットワークから情報提供の時間を多く取れたことは有意義だったという意見があった。